

光プロジェクト 令和3年度 「教育学部系進学研究会」(茨城大学との連携)

○ 実施日時

令和3年12月18日(土) 15時00分～16時30分

○ 実施場所

参加生徒の自宅 (Zoom を利用してのオンライン講座)

○ 対象生徒

本校生徒 教育学部系進学希望者 1年13名, 2年14名 3年4名 計31名

○ 講 師

小川 哲哉 教授(茨城大学教育学部 全学教職センター長)

教育学部学生(本校卒業生)

岡野 里佳子 さん(教育学部教育実践科学コース4年)

金子 憂未 さん(教育学部教育実践科学コース3年)

茨城大学教育学部の小川 哲哉 教授をお招きしての「教育学部系進学研究会」ですが、今年度はオンラインでの実施となりました。参加生徒31名は、それぞれが自宅から電子端末を利用して講座に参加しました。

参加生徒は、まずは小川先生の講話を通して大学における教育学のあり方を学び、続いてプレゼンテーションソフトを利用して、グループごとに協働してスライドを作成し、発表するというアクティブ・ラーニング型の実践を行いました。例年大いに盛り上がるコーナーではあるのですが、今回は使用機器、インターネット環境の違いからなかなかスムーズに参加できないケースが出るなど、いくつかのトラブルにも見舞われました(Zoom にうまく入れなかった方にはご迷惑をかけてしまいました。すみませんでした)。

しかし、そこはさすがの小川教授です。生徒たちの感想にもあるように、「トラブルをトラブルと感じさせない」ポジティブな姿勢で、参加者をぐいぐいと導いてくださいました。生徒たちも「問題解決能力」とは何か、先生の姿勢から直に学ぶことができたのではないのでしょうか。

時間的・環境的な制約の中、ご指導をいただいた小川先生、そして協力して頂いた大学生(本校卒業生の岡野さん、金子さん)の丁寧で的確なお導きに対し、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

<アンケート結果から>

設問1 この行事に参加した理由は何ですか。

- ・ 将来中学校の先生になりたいと思っているから。「光プロジェクト」が下妻一高を受験する1つの決め手だったから。

- 大学を決める上で様々なことを体験してみたかったからです。
- 進路が決まっていないので何かきっかけを作ろうと思ったから。
- 茨城大学の教育学部に進みたいと思っているから
- 将来の夢を考えた時に「教員」という言葉が浮かび 教育学部について気になったから。
- 中学校の教員を志望しているため。また、現状の教育について理解を深めるため。
- 教員を目指しているので同じような目標を持つ人たちがどんな考えを持っているのか、自分に足りないものがなんなのか知りたかったから。
- 教育実践科学コースについてさらに詳しく知りたかったから
- 少し興味があるが迷っているから参加しました。
- 将来の夢を模索中のため、たまたまこの光プロジェクトの存在を知ったから参加しようと思った。
- 私は教育学部に進み、教員の仕事に就きたいと考えているからです。また、私は心理カウンセラーや教育心理学に興味があり、教育実践科学コースは教員免許を取るために必要な授業もありながら、不登校やいじめに対することも学習できるということで自分の学びたいものに合致していたからです。

設問 2 今回の事業に参加して、「教職」に対する理解は深まりましたか。



設問 3 今回の事業に対する感想や、講師の方々への質問、メッセージを記述してください。

- 不登校について深く考えることができる時間となりました。小学校中学校のそれぞれの良さを知りたいです。
- グループで協力してプレゼンを作ったり、発表したことが良い経験になりました。
- 教職について、これからの私たちに必要とされるものをより深く考えることが出来た。
- グループワークで、教職で求められる能力について新たな見方・発見ができました。

- zoom で画面の共有ができなかったため、多くの人に迷惑をかけてしまったが、とても有意義な時間となった。
- 同じような方向を目指す先輩方と話し合いをすることはとても有意義な時間でした。
- 初対面の人と話し合うのは、大変だったけど、教員について考えることができました。
- 初対面の人とプレゼンを作ることで臨機応変に動ける力がついたと思います。ありがとうございました。
- 知らない人ばかりで最初は上手く出来なかったが、最終的にはいいものができたので参加してほんとに良かったと思いました
- 今回の事業を通して現状の教育の諸問題について理解を深め、将来どのような先生が求められているのかを考えることができた。今回は去年と違ってオンラインでの実施となった。ここまで本格的にオンラインで行うことは初めてだったし去年対面でやったようなことをオンラインで出来るのかと思っていたが、今回このご時世で無くてはならないズームの凄さを実感した。戸惑うことややりづらさを感じる部分もあったが、これから生きていく上で慣れなければいけないことだと思った。グループワークの初めは誰も喋らず無言の時間が続いたが、大学生の講師の方が最初に話をきってくれてそれを機に話が弾んだのでとても助かった。オンラインでのコミュニケーションの難しさも学べ、オンラインということがかえて良い経験となった。パワポに関しては出来る一年生が居たので良かったが、いつかは自分でレポート等を作るときが来ると思うのでスラスラと人に伝わりやすいパワポをしっかりと作れると良いと感じた。この事業を通して改めて将来について見直し考えられたのでしっかり将来に生かしていきたい。また、小川教授のようにトラブル等をネガティブに捉えず、何事にも諦めずに過ごしていきたい。小川教授、大学生の講師の方々、このような貴重な体験本当にありがとうございました。
- 今回初めてこのような事業に参加し、同じような目標を持つ人たちがとても具体的に『これからの教員に必要なことは何か』を考えられていて、自分ももっと考えないといけないし、それを周りに伝えられるコミュニケーション力も必要だとわかることができてよかった。
- 今回の研究会によってたくさんの人の教育に対する考え方を知ることができた。自分では思いつかないような問題点やそれに対する解決策などを聞いたので良い勉強になった。今後もこのような機会があったらまた参加して今回以上に教育についての理解を深めたいと思う。
- 初対面の人と何かを作ることがなかったので新鮮でした。
- 教師や教育についての興味がさらにわきました。この講義に参加してよかったと思いました。
- 講師の方々の説明とともに自分達でこれから必要となってくる人材を考え、教職について理解と感心が深まり、とても実のある時間にすることができました。本当にありがとうございました。
- 今回の事業を通して教員の在り方も時代に合わせて対応していかなければならないのだと思った。また自分の将来のことについてこの事業を活かして考えていきたいと思った。
- とても興味深い内容で、楽しかったです！ 定期テストがない学校もあると聞いてとても驚きました。わたしも定期テストのために勉強するのではなく、将来を見据えて勉強したいと思いました。